

令和7年度版「学力向上ポータルポートフォリオ(学校版)」【泰平小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	概ね知識・技能の定着が図れているが、学年によっては、基礎的・基本的な知識の定着に課題が見られた。また、定着に個人差があるため、個別の支援を充実させていく必要がある。繰り返し学習を徹底することで基礎学力の定着を図っている。また、ICTの効果的な活用について、教職員の研修を行っている。振り返りをさせるとき、文の構造(主語、述語、修飾語)を意識して書かせる活動を継続していくことで、R8年全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の結果で改善状況を検証していく。
思考・判断・表現	自分の考えを表現していくことについて、改善がみられてきているが課題も残る。探求的な学びを充実するために、「課題の設定～まとめ・表現」のスパイラルを繰り返す学習過程を意識し、児童が根拠をもって学習に取り組めるようにする。その際、体育科を切り口に進めている学校課題研修について、各教科に今までの実践を拡充させていく。さらに、教科横断的な視点をもつことで、他教科で学んだことを生かしながら、自分の考えを表現する機会を多く設定していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」算数「図形」 <指導上の課題> 定着に個人差がある。個に応じた指導や繰り返し学習の時間の確保が必要である。	⇒ 国語・算数のモジュールの時間を各30回程度設定し、個に応じて「学習ソフト」や書き込み式ドリル等を用いて、繰り返し学習に取り組む。【週に2回】 何ができたのか、どうしてできたのかなど、児童が自らの学びを振り返ることができるようにする。また、振り返りの中で、主語と述語を意識させる活動を継続していく。【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「読むこと」算数「変化と関係」 【指導上の課題】 意図的に思考力を深められるような学習活動が少ない。「わかる・できる喜び」を味わえるような、児童主体の授業展開が少ない。	⇒ 学校課題研修との関連を図りながら、直接的な指導とICTの活用を効果的に組み合わせた授業を展開する。また、児童が自らの考えを主体的に発表する機会を意図的に増やしていく。【毎時間】 学びのポイント「し・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行うために、自ら課題を設定し、解決するなどの探求的な学びを展開する。【学年の実態や単元に応じて学期に1回程度】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	モジュールの時間を活用し、ドリル等の繰り返し学習に取り組むことで、知識・技能の定着を図ろうとしたが、確実な定着には至らなかった。今後も定着のために繰り返し学習を実施していく。また、知識・技能の定着に向けて、児童が自ら計画を立てて学習に取り組めるようにしていく。支援していく振り返りを明確にしたことで、何を学んだのか、どんなことができるようになったのかを振り返ることができるようになってきている。
思考・判断・表現	B	自分の考えを主体的に発表する機会(自分の考えを理由付けて伝えたりする活動)を意図的に増やしたことで、自分の考えを表現することができるようになってきている。学校課題研修との関連を図りながら授業改善を行い、自ら課題を設定し解決するなどの探求的な学びを充実させたことで、根拠をもって課題に取り組む児童が増えた。また、「わかった・できた」喜びを味わうことで自己肯定感の向上や学びの目標アンケートの結果の向上も見られた。評価基準を児童に示し、児童が主体的に学習を展開することについては、今後も研鑽を続けていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の情報の扱い方に関する事項において課題が見られた。自分なりに情報を整理できるようにするために、目的や意図に沿って、線や囲みなど図示できるように指導することが重要である。算数のB図形において課題が見られた。図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、図形の性質について説明できるような活動を重視していきたい。理科のA物質・エネルギーの領域に課題が見られた。学習した知識を身の回りに見られる事象と関係付けたり、体験を重視したりして、物質の性質に関する理解を深められるような活動を重視していく。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。個別最適な学びの実現に向け、研鑽を積んでいく。
思考・判断・表現	各教科とも、全国平均を上回った。国語のB書くことにおいて課題が見られた。文章を書く際には、相手意識、目的意識を明確にもたせながら、書く内容を整理するよう指導していく。また、内容のまとまりで段落をつくらせ、段落相互の関係に注意ししりて文章の構成を考えられるようにしていく。算数のDデータの活用において課題が見られた。問題解決のために、複数の情報から問題解決に必要な数量を見だし、それらの数量の関係を探るとともに、式や言葉の式に表現できるような活動を重視していく。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるか」に対する肯定的な回答の割合が大きい。児童主体の授業改善を今後も継続して行っていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	概ね知識・技能の定着が図れているが、学年や教科によって差異が見られる。国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において課題が見られた。主語・述語の関係や修飾語と被修飾語の関係が理解できていないことがわかる。文を書く際にも、文の骨格である主語・述語に着目させたり、語句相互の関係に気をつけてさせたりすることで、文の組み立てを理解する力を育てていく。算数では、「数と計算」の領域において課題が見られた。特に、5年の「小数の除法の問題」や4年の「減法と除法が混在した問題」において、正答率が低かった。1より小さい数が被除数になった時の仕組みや問題が複雑化した時の計算のきまりが理解できていないことがわかる。なぜそうなるのか除法の仕組みを図に書いて考えさせたり、複雑化した時の計算のきまりを一つずつ手帳化させたりするなどして手立てを講じていく。
思考・判断・表現	国語では、「書くこと」の領域における「読み手や目的に応じて、文章全体の構成や表現の仕方を工夫することができるかどうかをみる問題」において正答率が低かった。読み手の関心を惹くための表現の工夫ができないことがわかる。様々な見出しを用意し、比較検討するなどの目的意識を持った活動をとり入れていく。算数の「データの活用」の領域に課題が見られた。2つのグラフの変化の様子を正しく読み取れていないことがわかる。社会では「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の領域で課題が見られた。グラフを提示する場面では、単に資料を見せるだけではなく、一部分を隠して変化に着目しやすくしたり、1つずつ変化を話しながら比較したりするなどの授業改善をしていく。理科では、「粒子」を軸とする領域で一部課題が見られた。身の回りから関係のある物を探したりする活動を行うことで、学んだことと実生活を結び付けるとともに、学習内容の深い理解につなげたい。市学習質問「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか?」の項目では、肯定的な回答が9割を超えていたため、今後も主体的対話的で深い学びを充実させていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	モジュールの時間を活用し、繰り返し学習に取り組んでいる。学習内容を定着させるために、タブレットの学習ソフトを活用するなど、一人ひとりの課題にあった学習に取り組ませようとしている。何ができたのか、どうしてできたのか視点を明確にし、何ができたのか、どうしてできたのかを振り返る時間を確保しているが、毎時間の実施については課題が残る。	変更なし
思考・判断・表現	B	学校課題研修との関連を図りながら、直接的な指導とICTの活用を効果的に組み合わせられるよう、授業を展開している。学びのポイント「し・しゃ・く」を意識し、学年の実態に応じて、探求的な学びを工夫しているが、学校全体での実施には課題がある。	友達同士で言葉で説明したり、学んだことを図に表したりする活動を多く取り入れ、知識と関連付けて理解を深められるよう指導していく。【毎時間】 評価基準を児童に示し、児童主体の振り返りができるようにする。【単元によって2回程度】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)